

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2191700117-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南頬町5丁目22-1 モナーク安井307
訪問調査日	平成25年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」
 入居者、ご家族様にとってADLの変化により環境を変える事が心配だと思われる方も少なくないと感じます。グループホーム楓では車椅子になっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化に伴って環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で、安心して過ごしていただくことができます。四季を感じる空間.....モダンで開放的な空間、農園、庭園など敷地内に居ながら四季を存分に楽しんでいただくことができます。
 ご家族様とのスカイプ通話可能.....整ったインターネット環境により、ご家族様、遠方に住まわれているお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話をさせていただくことが可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して3年を経過するグループホームである。管理者は介護および医療の現場を十数年経験し、熱い思いを持って運営にあたっている。ホーム建物は利用者本意の設計が随所に施され、ホーム内の自由な移動や庭でのリハビリを楽しむことができる。また自己評価の項目について職員同士で確認し合っており、サービスの質の向上にその成果が表れている。更に職員全員がPC端末を持ち、ホーム内の情報を瞬時に共有できるシステムを構築している。管理者が出張等でホームから離れていても、突発的に起こったできごとへの指示を職員全員がメールで受けることができる。また祭りや花火大会などをホームの大型テレビに映し出して利用者に楽しんでもらったり、家族とはテレビ電話で会話し、孫の顔を見ながら話すこともできる。新しい未来型グループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。	職員全員がPC端末を持ち、作動させるたびに理念が映し出される仕組みになっている。おのずと理念を目にする機会も多く、日々のサービスやケアに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に呼んでいただく、地域ボランティアさんの協力であったり、施設行事への参加していただけるなど、できるだけ地域の方達との交流の機会を多く設けています。	開設時から恵那市社協や自治会長の支援もあり、地域ぐるみでの協力体制が築かれている。またホームからも、チラシや行事の案内を一軒一軒手渡しするなど、地域との関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として施設を解放する他に、地域の認知症サポーターとして講習を開催させていただき地域貢献できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う事で、入居者様や地域の方々の方々の要望をお聞きしたのち、サービスに落とし込める様にスタッフ会議などで検討しております。	昨年までは運営推進会議への家族の参加が少なく、目標達成計画に取り上げて改善を図り、徐々に出席者が増えている。会議では活発な意見が出され、運営の改善に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、認知症サポーター講習など、市町村担当者と相談して一緒に行う事で、より良い関係を築けるよう努めております。	開設時から市役所の担当者とは連携が取れており、様々な場面で協力や助言を得ている。地域住民を対象にした認知症サポーター講習にも市から呼びかけがあるなど、良い関係が続いている、	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。	身体拘束のないケアの実践について、自己評価の際にも職員同士で話し合ったり確認合っている。ホーム自体が開放的で、利用者は伸び伸びとゆったりした日々の生活を楽しんでおり、拘束は一切行われていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時勉強会を行い、関係者と話し合えるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご説明し、その後入所時に再度ご不明な点などをご説明させていただき、ご了承いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時から家族会などの行事の時などで要望をお聞きしたものは、同月の会議に落とし込み、より満足して生活していたけよう努めております。	家族会があり、その中から意見が出される仕組みになっている。しかし家族からはお礼の言葉が聞こえるだけで、意見や提言はあまり出てこない。職員は家族が意見を言いやすいような雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良いサービスを提供できるよう、毎月行われる定例会議に代表者も参加し、一般職員との意見交換を行っております。	管理者は開設2年目となる昨年度、職員に役割を振って責任を持たせ、3年目の今年度は仕事を職員に渡している。このことで職員に自覚が芽生え、チームワークも育ってきている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に入る事で、スタッフの実情をより早く把握し検討する事で、条件環境整備に落とし込んでいけるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当をもって、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症への理解などの研修に参加し、質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、スタッフ交流会を設け、意見交換できる場を設けるなどを行う事で外部との繋がりを持つ他、お互い良い刺激になるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも希望に添え安心して入居いただけるよう務めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも日ごろの密な連絡や家族会などで、ご本人様への思いなどをお聞きし、希望にそえるよう務めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、自宅で過ごされる機会であったり、面会に来ていただくなど、今までの人間関係が切れいない様務めております。	利用者はテレビ電話で孫と顔を見ながら話している。また祭りや花火大会、それぞれの利用者の住んでいる地域の行事などを映し出し、馴染みの場所などを思い出してもらおう工夫をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様方の関係性を把握し、それぞれに合わせた環境を整備させていただき、個にならないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もできるかぎりのフォロー体制をとり、その後の相談援助などに努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。	テレビゲームでのボーリングやクイズ、時には歌を唄ったりボランティアと交流したりと、楽しい日々を過ごしている。本人より喫茶店に行きたい、散歩や美容院に行きたいなど、希望があれば叶えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努める他、毎日の心身状態を把握検討を行い、無理の無いように安心して過ごしていただけるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当者会議から、随時話し合いの時間を持つ事で、ご本人様に合った介護計画を作るよう努めております。	利用者の日々の情報が職員からケアマネージャーに集められ、介護計画の素案を作成している。その後カンファレンスなどで説明して、意見を交わしている。評価も全員で行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の変化に対応できるよう、毎日朝礼で情報共有を行い、即時対応できる様務めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して随時、ご本人様ご家族様と話し合いを持ち、柔軟な対応ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活により近い環境で過ごしていただけるよう、ご本人様の意向を大切にできるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師(主治医)との密な連携をとる事で、適切な医療サポートを受けられるよう支援させていただいております。	本人、家族の希望を大切に医療受診である。又ホームの協力医の往診は2週に1回行われている。急変時には昼夜を問わず受診でき、情報を共有しながらの適切な医療体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフとして看護職がおりますので、日々情報伝達相談で、早急な場合でも対応可能な様に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問、ソーシャルワーカーとの連絡をとる事で、情報伝達を密にできるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様、医師、看護師、介護士で話し合いを行い、今後の方向性を確認。ご本人様とご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。	ホーム入居の契約時に重度化や終末期に向けた方針を説明し、その時期が訪れた折々に確認を取っている。医療関係者、介護スタッフ一丸となり、利用者および家族の意向に沿える支援である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、看護師より指導、実技講習などを行う事で実践力向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、緊急災害時対応ができるよう徹底しております。防災訓練に地域の方に参加していただき、協力を得られるよう努めております。	消防計画も立て、4月に総合防災訓練を実施予定である。自治会の協力を得ており、ホーム近くの職員数人を中心に、早期対応が出来る体制がある。備蓄品も少し余分に備え、避難場所としての提供の意志もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の心身態観察を行い、その時々に応じた対応ができるよう支援させていただいております。	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念を基に、接遇のあり方を常に研鑽し全職員で確認し合っている。又特別なコーナーに伝達事項や個人記録を保管し、プライバシーの確保にも十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つご本人様に声かけさせていただき、自己決定できるよう支援させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムで、生活していただけるようご本人様のペースを大切に支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望をお聞きし、ご本人様に選んでいただくなど、その人らしく生活できるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割を持っていただき、毎日楽しく生活していただけるよう支援させていただいております。	主菜は外部より取り寄せ、副菜はホーム菜園の収穫野菜等を利用している。片づけ等は個々の出来る範囲内で行っている。又ミキサー食、きざみ食も利用者の状態に対応したメニューである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握し、随時それぞれに合ったバランス食を提供できるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行う事で、口腔内の状態把握ができるよう支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、できるかぎりトイレでの排泄していただけるよう支援させていただいております。	電子介護カルテを十分に機能させ、体調変化や排泄パターンを知り、トイレ誘導を行っている。オムツ使用の利用者に対しトイレでの排泄を促し、自立に向けた支援に積極的である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、個々に応じた予防ができるよう支援させていただいております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決めてありますが、随時ご本人様にお聞きし、希望に沿えるよう支援させていただいております。	週2回の午前中入浴となっているが、利用者の希望に沿い臨機応変に対応している。浴槽は右マヒ、左マヒそれぞれに対応でき、さらに特殊浴槽もある。大自然を眺めながら入浴出来る浴室である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあり、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時看護師より情報伝達がある他、朝礼にて周知徹底し介護スタッフ全員症状把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った趣味嗜好で毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を定期的に行う他、ご家族様の協力を得て、ご本人様が外出外泊などでもできるよう支援させていただいております。	出かけた所を日常の会話から聞き出し、花見、紅葉狩りなどに出かけている。出かけられない人は、スカイプ通信で花見や祭り中継を見ることができる。家族との旅行の際には利用者の情報を細かく伝え、安心感のある1泊旅行を実現している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人様とご家族様に任せております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行い、離れているご家族と顔を見て話していただけるよう整備させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に居ながら四季を感じられる開放的な空間で、それぞれに安心してお過ごしいただけるよう環境整備させていただいております。	2ユニット間の行き来は自由である。通路やフロアは清潔感のある共用空間で広く、車椅子も十分に対応が出来る。ホームの南側には広いデッキがあり、車椅子での外気浴、杖歩行の訓練も出来、自然を肌で感じられる開放的な環境である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様達の関係性を理解し、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人様と、ご家族様の意向で環境整備させていただけるよう支援させていただいております。	使い慣れたタンスや鏡台等を持ち込んだり、位牌をタンスの上に置いて花を飾ったりと、その人らしい居室となっている。又毎日の洋服選びにも工夫を凝らし、一人ひとりの自立に向けた支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっていて、菜園や庭園などもあり、それぞれに合った楽しみを見つけて、毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700117		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム楓		
所在地	岐阜県恵那市三郷町野井亀ヶ沢1736-244		
自己評価作成日	平成25年2月27日	評価結果市町村受理日	平成25年5月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/21/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosyoCd=2191700117-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成25年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」
 入居者、ご家族様にとってADLの変化により環境を変える事が心配だと思われる方も少なくないと感じます。グループホーム楓では車椅子になっても安心な設備を整えていますので、ADLの変化に伴って環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で、安心して過ごしていただくことができます。四季を感じる空間.....モダンで開放的な空間、農園、庭園など敷地内に居ながら四季を存分に楽しんでいただくことができます。
 ご家族様とのスカイプ通話可能.....整ったインターネット環境により、ご家族様、遠方に住まわっているお子様と、いつでもテレビ電話で顔を見てお話をさせていただくことが可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に呼んでいただき、地域ボランティアさんの協力であったり、施設行事への参加していただけるなど、できるだけ地域の方達との交流の機会を多く設けています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談窓口として施設を解放する他に、地域の認知症サポーターとして講習を開催させていただき地域貢献できるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を行う事で、入居者様や地域の方々の要望をお聞きしたのち、サービスに落とし込める様にスタッフ会議などで検討しております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議をはじめ、認知症サポーター講習など、市町村担当者と相談して一緒に行う事で、より良い関係を築けるよう努めております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月行われる定例ミーティングで、全スタッフに周知徹底している他、スタッフ同士で質の向上に努められるような関係性を作れるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時勉強会を行い、関係者と話し合えるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご説明し、その後入所時に再度ご不明な点などをご説明させていただき、ご了承いただけるよう努めております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段の面会時から家族会などの行事の時などで要望をお聞きしたものは、同月の会議に落とし込み、より満足して生活していただけるよう努めております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	より良いサービスを提供できるよう、毎月行われる定例会議に代表者も参加し、一般職員との意見交換を行っております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場に入る事で、スタッフの実情をより早く把握し検討する事で、条件環境整備に落とし込んでいけるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各スタッフに担当をもって、責任ある行動をとれるよう努める他、施設内外の介護技術、認知症への理解などの研修に参加し、質の向上に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に他施設への見学、スタッフ交流会を設け、意見交換できる場を設けるなどを行う事で外部との繋がりを持つ他、お互い良い刺激になるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも安心して入居いただけるよう務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様と面談を行い、要望不安をお聞きし、少しでも希望に添え安心して入居いただけるよう務めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きるという」理念を元に、地域の中でともに暮らす家族の様な関係を作れるよう日々務めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時以外にも日ごろの密な連絡や家族会などで、ご本人様への思いなどをお聞きし、希望にそえるよう務めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得て、自宅で過ごされる機会であったり、面会に来ていただくなど、今までの人間関係が切れいない様務めております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様方の関係性を把握し、それぞれに合わせた環境を整備させていただき、個にならないよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退後もできるかぎりのフォロー体制をとり、その後の相談援助などに努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居事前面談によりご本人様の要望をお聞きし、入居後も自宅での生活の延長線で過ごしていただけるよう努める他、毎日の心身状態を把握検討を行い、無理の無いように安心して過ごしていただけるよう努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前の担当者会議から、随時話し合いの時間を持つ事で、ご本人様に合った介護計画を作るよう努めております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の心身の変化に対応できるよう、毎日朝礼で情報共有を行い、即時対応できる様務めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して随時、ご本人様ご家族様と話し合いを持ち、柔軟な対応ができるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活により近い環境で過ごしていただけるよう、ご本人様の意向を大切にできるよう努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師(主治医)との密な連携をとる事で、適切な医療サポートを受けられるよう支援させていただいております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフとして看護職がおりますので、日々情報伝達相談で、早急な場合でも対応可能な様に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問、ソーシャルワーカーとの連絡をとる事で、情報伝達を密にできるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様、ご家族様、医師、看護師、介護士で話し合いを行い、今後の方向性を確認。ご本人様とご家族様の意向に沿えるよう支援させていただいております。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	随時、看護師より指導、実技講習などを行う事で実践力向上に努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、緊急災害時対応ができるよう徹底しております。防災訓練に地域の方に参加していただき、協力を得られるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日の心身態観察を行い、その時々に応じた対応ができるよう支援させていただいております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一つ一つご本人様に声かけさせていただき、自己決定できるよう支援させていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムで、生活していただけるようご本人様のペースを大切に支援させていただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	それぞれの希望をお聞きし、ご本人様に選んでいただくなど、その人らしく生活できるよう支援させていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれに合った役割を持っていただき、毎日楽しく生活していただけるよう支援させていただいております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の栄養状態を把握し、随時それぞれに応じたバランス食を提供できるよう努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食口腔ケアを行う事で、口腔内の状態把握ができるよう支援させていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、できかぎりトイレでの排泄していただけるよう支援させていただきます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、個々に応じた予防ができるよう支援させていただきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本入浴日は決めてありますが、随時ご本人様にお聞きし、希望に沿えるよう支援させていただきます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムがあり、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただきます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	随時看護師より情報伝達がある他、朝礼にて周知徹底し介護スタッフ全員症状把握に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれに合った趣味嗜好で毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出する機会を定期的に行う他、ご家族様の協力を得て、ご本人様が外出外泊などできるよう支援させていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限りご本人様とご家族様に任せております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙、インターネットを使ったテレビ電話サービスを行い、離れているご家族と顔を見て話していただけるよう整備させていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内に居ながら四季を感じられる開放的な空間で、それぞれに安心して過ごしいただけるよう環境整備させていただいております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様達の関係性を理解し、それぞれに合った生活を送っていただけるよう支援させていただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人様と、ご家族様の意向で環境整備させていただけるよう支援させていただいております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっていて、菜園や庭園などもあり、それぞれに合った楽しみを見つけて、毎日楽しく生活していただけるよう努めております。		